

ところでビットコインはどうなる？



麗澤大学経済学部教授
中島真志氏

なかじま・まさし／一橋大学
法学部卒業後、日本銀行へ入
行。調査統計局、金融研究所、
国際局、国際決済銀行などを
経て、現職。金融庁の審議会
にも数多く参加。

仮想通貨の未来とは？ 次の波に乗り遅れるな！

投資というと、一攫千金を夢見
て仮想通貨を思い浮かべる人も多
いだろう。ビットコインは昨年一
年間で約20倍上昇し、資産が1億
円を超える「億り人」が続出した。
その後は暴落したが、「次の上昇
で儲かるかも」別の仮想通貨が狙
い目では？」と考える人も多いだ
ろう。そこで、著書『アフター・
ビットコイン』で早くからブーム
に警鐘を鳴らしてきた麗澤大学教
授・中島真志氏に仮想通貨の今後
を聞いた。

ビットコインの 資産価値はゼロ

昨年12月、ビットコインが異常
な上昇をした時、値動きを見て、
17世紀のオランダで起きたチュー
リップバブルの最終局面と酷似し
ていることに気づきました。当時、
数百円の価値しかないチューリッ
プの球根が家1軒分の値段まで上
昇したのです。そのバブルは3年
で終了したことから、ビットコイ
ンも今年あたりが危ないと感じた
のですが、想定よりも早かったと
いう印象です。

そもそも仮想通貨には投資の指
標がありません。株式なら株価収
益率などの指標があり、株価が割
高なのか割安なのかがわかります

が、仮想通貨はわからないのです
また、株式や債券は配当や利子が
もらえますが、仮想通貨にはない
現在の金融理論では、配当や利子
というキャッシュフローを生まな
い資産の価値はゼロと見なされま
す。つまり、価値がゼロのものに
一時的にせよ200万円以上の値
がついたことになりません。

さらに、私が憂慮するのはビッ
トコインに対する国内の評価です。
暴落こそしましたが、「将来的に
は世界を変える通貨になる」とい
う見方がいまだに根強く残ってい
ます。実はこうした評価は日本だ
け。海外では、もう2〜3年前か
ら、ビットコインについて好意的
な見方をする金融関係者は誰ひと
りいません。世界的な闇サイトで
使われるなど、犯罪に関与してい
ることが判明したからです。そう
したものが世界で流通するとは到
底思えないのです。

ビットコイン以外の仮想通貨も、
本源的な価値がない点は変わらな
いため、基本的には同じです。国
内外の銀行がリップル(※1)を導
入すると報道されていることから、
リップルが有望という人もいます
が、リップルを利用した送金シス
テムを導入しているだけである点
に注意が必要です。

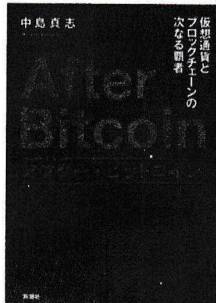
金融を根本から変革する ブロックチェーンに注目

したがって、ビットコインを含
めた仮想通貨を投資対象とするの
は、やめたほうがよいでしょう。
日々の変動幅が大きいので余剰資
金で「投機」として楽しむのはい
いかもしれません。

ただし、仮想通貨がバブルで終
わっても、忘れてほしくないのが
仮想通貨の中核技術である「プロ
ックチェーン」(※2)の重要性で
す。仮想通貨に应用された「プロ
ックチェーン1.0」に続き、金
融分野に应用する「ブロックチェ
ーン2.0」が進んでいます。

世界の中央銀行はこの技術を使
った「デジタル通貨」の発行に向
けた準備を進めています。

カナダ中銀の「CADコイン」
や中国人民銀行の「チャイナ・コ
イン」、ロシア中銀の「クリプト
ルーブル」などの実証実験がスタ
ート。スウェーデン中銀の「エク
ローナ」はすでに発行計画が策定
されています。さらに、昨年11月
にはウルグアイ中銀がデジタル通
貨「eペソ」の世界初の試験運用
を始めたようです。中央銀行のデ
ジタル通貨こそ、見逃せない動き
といえます。



『アフター・ビットコイン』
新潮社 1600円

2017年10月に発行された中
島教授のベストセラー。近い
将来のビットコインバブルの
崩壊を予言していた。

※1 リップル：送金/決済に特化した仮想通貨。「XRP」という単位で表わされる。

※2 ブロックチェーン：分散型台帳技術とも呼ばれ、ビットコインを支える中核技術として開発された。「ブロック」と呼ばれる取引データの固まりを一定時間ごとに生成し、時系列的に鎖のようにつなげていくことによりデータを保管する。データの改ざんが事実上不可能となっている点が特徴で、今後幅広い分野での活用が想定されている。